

# 耕作放棄地24a耕したら、 菊地くんが大学生や 移住者を呼んできた

岡山県瀬戸内市・裳掛地区

文〓編集部 写真〓大村嘉正

瀬戸内海沿岸、温暖でじつに住みやすそうに見える旧邑久町・裳掛地区だが、ここ10年の人の流出は深刻だ。危機感から地域再生に立ち上がる地区の人たちを、地域おこし協力隊が応援した。外から来た人材。うまくかみあえば、結構おもしろい動きがとれる。地域の力が発揮できる。裳掛地区コミュニティ協議会の服部靖さんと協力隊の菊地友和さんに、アツい思いを語ってもらった。

## 泥の船から木の船に乗り換えんと

裳掛地区コミュニティ協議会 会長 服部 靖さん（71歳）

若い世代が出ていった

旧邑久町・裳掛地区には17の集落があって、コミュニティ協議会はこれらを統括しとる自治組織ですわ。私は地元  
の信用金庫に勤めていましたが、地域に育ててもらったか



瀬戸内市の中心から車で30分ほど離れた裳掛地区。ピオーネ、ミカン、ジャガイモなどが盛ん。冬は季節風を中国山地がさえぎり雪はめったに積もらない



「いつもは作業着だけど」と菊地さんと相談して取材用に背広姿で来てくれた服部靖さん。「仕事ばっかりやってきたので、今度は地域に力を注ぎたい」



ら定年後は恩返しせんと、と2012年度から会長をします。  
このむらはいつ転覆するかわからない、泥の船に乗っているようなもん。このままでは生まれ育ったむらが沈んでしまう。早く木の船に乗り換えんと、思ってた。  
裳掛は900世帯、2300人おられますけど、10年前、隣の牛窓町と長船町と合併して瀬戸内市になったときと比べると、世帯は30、人は770人も減った。明らかに若い世帯が外に出てる。高齢化率も市全体だと30%だが、裳掛は45%ほど。  
もう一つ心配なのは裳掛小学校。旧邑久町には小学校が4つあったが、その一つが12年度で廃校になってしまった。うちの裳掛小もいま児童が45人。廃校の危機にある。  
裳掛小がなくなったら車で30分離れた中心部まで通うことになる。そんな子どもたちが大きくなったとき何人が裳掛に残ってくれるのか。若い世帯はどうせならと中心部へ引っ越してしまうかもわからん。むらはどんどん小さくなってしまふ。



向こう半分が再生させた畑。日当たりはよいが灌漑施設が整っていないので、高齢化で手が回らなくなると放棄地になりやすい

